

1月11日(月)

自分の恐れを恐れる

聖書朗読 イザヤ 8：12～18

愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。 Iヨハネ 4：18

現代ほど人々が様々な企みに心が捉えられた時代があったのでしょうか。ソーシャルメディアによって、日々恐れが増幅され懐疑的になり、不信感で身動きが取れなくなっているのではないのでしょうか。

けれどもこのような状況は実は何も新しいことではありません。イスラエルにおいても、その指導者や民の間の政治的内紛によって駆り立てられた様々な謀略に関する恐れと闘っていました。それについてイザヤはイスラエルを戒めています。それは恐れを抱くことに対してではなく、誤った恐れについての戒めでした。イスラエルの民は、アッシリアの侵攻を恐れていましたが、エホバの聖なる存在を恐れていなかったのです。

謀略は確かに危険です。けれども、それ自体を恐れるよりも、それらが私たち自身の内引き起こすものを恐れるべきです。それは、憎しみの正当化、陰口、あるいはもっと悪質なものかもしれません。イスラエルには次のような表現があります。主なる神は、恐れる者には力の岩、恐れぬ者には躓きの石。いかなる謀略が私たちを脅かそうとも、イスラエルの忠言を心に留めておきましょう。私は主を待ち望み主に信頼します。主なる神の完全な愛が私たちの大きな恐れを消し去ってください。

讃美歌 290

祈り 親愛なるお父様、私たちは恐れに満ちた世に生きています。私たちが恐れるこの世のいかなるものも、あなた様の御愛への信頼により与えられる平安を私たちから奪うことがないように願います。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デイビッド・ラングフォード
テキサス州 ラボック

今日の力

2021年1月11日～1月17日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月12日(火)

平和の君

聖書朗読 イザヤ 9:1~7

キリストこそ私たちの平和であり、…キリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。

エペソ 2:14、17

イエス・キリストは、イザヤ書9章6節で「平和の君」と記されていますが、これはどのような意味でしょうか。主教エドワード・ピカステスはこれを「平和、完全な平和」という讃美歌の中で美しく描いています。この讃美歌が作られたのは1875年ですが、この歌詞は内なる平安を求める現代の私たちにも当てはまるものです。各節とも最初のフレーズでは私たちが平安を求めてもがく姿が描かれ、それに続いて私たちの目を平和の君なるイエス・キリストに向けるよう促しています。心に落ち着きを与えられるこの讃美歌の歌詞を味わってみてください。

この暗い罪の世に、平和、完全なる平和よあれ
イエスの血潮、平和をささやく
のしかかる重き荷、平和、完全なる平和よあれ
イエスのみこころをなせ そこに平安あり
この世の闘いやがて消え去り
イエスは我らを呼びたもう 天の全き平安へと

讃美歌 420

祈り お父様。様々な対立があり、先が見えないとき、あなた様の平和を求めます。平和の君なるイエス様を私たちにお与えくださり感謝します。
イエス様のお名前によって。アーメン。

ローズマリー・マックナイト
テネシー州 ヘンダーソン

1月13日(水)

主を賛美する

聖書朗読 イザヤ 12

私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。 ヘブル 13:15

天のお父様は、御子をお与えくださったという恵みは言うまでもなく、他にもすばらしい恵みを沢山お与えくださっています。そのひとつとして、神を賛美するという賜物があります。この全宇宙の目に見えるもの見えないものすべての創造主なるお方を称えるよう求められ、それが許されているというのは何とすばらしいことでしょう。

私たちは歌によって神を讃美し、祈りをもって主を礼拝し、神の栄光を語る礼拝メッセージを通して、神への深い愛と信仰を表します。主を褒め称えることは、どのような形であっても賜物であり、神に栄光を帰すことで、私たちは神が望まれた者へと形作られていきます。主を褒め称えることによって、私たちには喜びがもたらされ、充足感がさらに深まり、悲しみや失望も耐え忍ぶことが容易になります。自分が価値のないものと思うときも、創造主を褒め称えることによって、私たちの魂は活き活きとしてきます。

私たちのお父様は、私たちがこの世を歩む上で必要なものをご存知です。神様は、数えきれない恵みによって、私たちの魂を満たし続けてくださっています。神様は、私たちへの計り知れない御愛により、大切な御子を通して、神の呼びかけに従い神様を最も褒め称えるべきお方と告白する者に永遠のいのちを与えてくださいます。主を最も称えるべきお方としましょう。聖なる御名を称えましょう。

讃美歌 79

祈り 親愛なる天のお父様。私たちは、全身全霊であらゆる行いにおいて、あなた様が主であり創造主であることを言い表します。
イエス様のお名前によって。アーメン。

リサ・ラングフォード
テキサス州 ラボック

1月14日(木)

拠り頼むべきは誰か

聖書朗読 イザヤ 40:10~17

御名を知る者はあなたに拠り頼みます。主よ。あなたはあなたを尋ね求める者をお見捨てになりませんでした。

詩篇 9:10

信頼というのは、容易にできるものではありません。私たちは、最も安全で信頼のおけるものに拠り頼みます。イスラエルが既に征服されていた当時のユダでは、侵攻してくる敵から自分たちを守ることが何より重要でした。弱小国であったユダは、誰に拠り頼むことができたでしょう。私たちはその時神様の備えがあったことを知っています。

けれども、当時のユダの民らは、神様に立ち返り助けを求めた必要があったにもかかわらず、立ち返ることをせず、周辺諸国と同盟を結ぶことを試みました。何と愚かなことでしょう。成功するはずありません。彼らは信頼も出来ず保証も与えてくれる存在ではありませんでした。今日の聖書箇所をよく吟味してみてください。神様はその御手に大海を抱えることがお出来るほど力強いお方であると同時に、その同じ御手で、羊飼いがその羊たちにするように私たちを優しく抱いてくださいます。この神様は空に星をただ置かれただけではなく、ひとつひとつその名をもって呼ばれるお方です(26節)。こうした神様とは比較にならないほど、ユダの周辺諸国の民は非力な存在だったのです。皆さんは誰に拠り頼みますか。

ユダについて、安全を求めて近視眼的な解決策を取ったと責めるのは簡単ですが、私たち自身も拠り所としている存在は誰かと問いかけてみてください。日が昇るとき、沈むとき、星が輝く夜、私たちはただ神様がそれらを造られただけでなく、それらを完全な形で機能させ続けてくださっていることを覚えましょう。神様こそ私たちの拠り所です。

讚美歌 494

祈り 親愛なる神様。あなた様はすべてにおいて真に恐るべきお方です。私たちの信頼を完全にあなた様のみ置かせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アール・D・ラベンダー
テネシー州 プレントウッド

1月15日(金)

手を取ってくださる神様

聖書朗読 イザヤ 4:11~14

しかし私は絶えずあなたとともにいました。あなたは私の右の手をしっかりとつかまえられました。あなたは、私をさとして導き、後には栄光のうちに受け入れてくださいます。

詩篇 73:23~24

世界を繋ぐコミュニケーション手段により、私たちは多くの悲劇や困難な状況にある人々のニュースを絶えず見聞きし心が痛みます。東南アジアでの洪水。英国でのテロリストにより多くのいのちが奪われた事件。エボラ出血熱。コロナウィルス。海面上昇。何と多くの人が絶えず恐れの中に生きているのかと思わされます。

個々の抱く恐れに唯一の癒しはありません。恐れとは、私たちの置かれた状況に反応して生じる感情です。この恐れに対する最善の癒しは、神様が私たちとともにおられ、決して私たちを離れず、お見捨てになることもない(ヘブル13:5)ということを知ることです。聖書では、神様がご自身の民、イスラエルの国に対し、「恐れるな」と言っておられる箇所が100か所ほどもみられます。

子供が恐れを抱いたときに親の手を握るように、私たちも神様に、心を落ち着かせ、私たちの抱く恐れが今後決して起こらないと確信させてくださいと願うことが出来るのです。神様の御手は私たちに差し伸べられています。

勿論、恐ろしい出来事や様々な問題は今後も耐えず起きるでしょう。けれども、神様はそばにおられ、私たちの手を握り私たちを癒してください。

讚美歌 519

祈り 親愛なる主よ。あなた様は私たちのあらゆる恐れを知るとともに、私たちの望みもすべてご存じです。日々私たちのそばに、癒しをお与えくださるあなた様がいてくださることを覚えさせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ロバート・P・ミュレン
テキサス州 ノースリッチランドヒルズ

1月16日(土)

死んでくださった救い主

聖書朗読 イザヤ 53:4~12

ことばに表せないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。

Ⅱコリント 9:15

神様がどうして、御子をあの恐ろしい金曜日の出来事のために犠牲にすることがお出来になったのか、私には完全に理解することなど到底できません。私は息子たちに恵まれています、私はその息子たちを犠牲にするほどの勇気もなく、また寛大な者でもありません。イエス様を、重大な結末となる究極的なご使命のためこの世に送られることは、言い表すことのできないほどの愛がなければ出来るものではありません。

けれどもイエス様のあの恐ろしい出来事はそれで終わりではなく続きがあり、今もそれは続いています。あの金曜日はイエス様の肉体的な死をもたらしましたが、その命の復活はその後の日曜日に起こりました。究極の御愛、すばらしく驚くべき恵みのお話が新たに始まったのです。

イエス様のこの世の歩みの最後の日々は大変苦痛に満ちたものでした。イエス様はご自身が通られる道を知っておられ、父もご存知でした。そのご使命は、完全に全うしなければならぬものでした。それが私の罪の為であったことを思うと、心が苦しくなります。けれども、測り知れない犠牲のもとにあの出来事がなされたことで、私に驚くばかりの希望が与えられたのです。いつか神様の御愛の深さを完全に理解できる日が来ることを願います。最も清い血潮が私の為に流されたのです。イエス様は死なれ、そして再び甦られました。死による犠牲まで払って、私にとって大切な救い主をお与えくださったその御愛、それ以上の愛はありません。

讃美歌 136

祈り 親愛なる主よ。イエス様がいかんにして、輝かしい天の御国を離れ、この世で恐ろしい死を経験することがお出来になったのか、私には到底理解できません。けれどもそこには栄光が現わされました。私はイエス様の犠牲を決して忘れません。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ケイシー・R・メレディス
アーカンソー州 パラゴールド

1月17日(日)

帰れ我が家に

聖書朗読 エレミヤ 3:11~13

背信の女イスラエル。帰れ。

エレミヤ 3:12

我が家とは自分の心のあるところ、私たちの属するところであり最も愛を感じる場所です。ですから私は学生時代に大学に戻ると、ホームシックの波が心に押し寄せ、毎日我が家のことを考えたものです。

神様の子どもである私たちの真の永遠の我が家、そこは父なる神様とともにいる所です。そこでは私たちは無条件で愛され、最善の存在とされ、意味が与えられ、真に重要な自分のアイデンティティーが与えられます。

そうであるのに、なぜ私たちは、天の父の存在の有難さを軽んじてしまうのでしょうか。なぜ、その御愛をほとんど振り返らずに日々過ごしてしまうのでしょうか。なぜ、仕事や気をそらすもの、人間関係、苦々しさ、心配などで日々心がいっぱいになってしまうのでしょうか。なぜ、この世の見方や価値観に従ってしまうのでしょうか。そうしたことに注意しないしていると、私たちは天の父とそのこどもとしてのアイデンティティーから離れ彷徨ってしまいます。立ち止まって耳を傾けましょう。天のお父様は呼び掛けておられます。神様の永遠の愛をもって、「帰れ、我が家に」と呼び掛けておられ、それを私たちに願っておられます。

内へと向かうとびら

最も崇高なお方の聖なる場所へと導くとびらはすべて

自己を離れ、些細なことから離れ、悪を離れていくとびらである

ジョージ・マクドナルド

讃美歌 517

祈り お父様。私は自分の楽しみや快適さを求める自己中心的な思い、人を裁く姿勢、あるいはこの世的な事柄に心が捕らわれてしまうことをあなた様の御前に告白します。彷徨う私の心を常にあなた様に立ち返らせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ダナ・メレネス
テキサス州 ヴィクトリア